

学 会 録 事

1. 自然史学会連合

2020年度自然史学会連合総会が、2020年12月12日にオンライン会議システム（Zoom）により開催された（ホスト：国立科学博物館植物研究部保坂健太郎氏）。議長：大木淳一氏（千葉県立中央博・地学団体研究会）。北山太樹会員が出席。

自然史学会連合の活動等については、連合のホームページを参照ください。

2. 2021年度第1回持ち回り評議員会

第1回持ち回り評議員会（2021年2月15日～24日）を開催し、【議案1】「日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会論文賞（英文誌「Phycological Research」）選考実施要領に基づき、第24回日本藻類学会論文賞（2021年3月授与）を以下の論文に授与する。Tomohiro Nishimura, Hajime Uchida, Toshiyuki Suzuki, Wittaya Tawong, Shota Abe, Shingo Arimitsu, Masao Adachi. First report on okadaic acid production of a benthic dinoflagellate *Prorocentrum cf. fukuyoi* from Japan (Issue 1, Pages: 30–40)」の可否を審議した。その結果、国内評議員15名のうち、11名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

3. 2021年度第2回持ち回り評議員会

第2回持ち回り評議員会（2021年2月15日～24日）を開催し、【議案1】「日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、第17回研究奨励賞（2021年3月授与）を秋田晋吾氏に授与する」の可否を審議した。その結果、国内評議員15名のうち、12名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

4. 日本藻類学会第45回大会（オンライン東京）

上記大会を2021年3月15日（月）～17日（水）にオンラインで開催した。1日目は、3つのワークショップ（「Rを用いた藻類データの解析セミナー 初級コース」「Rを用いた藻類データの解析セミナー 中級コース」「実践的藻類ゲノム解析 入門から応用まで」）が行われた。2日目は口頭発表（2会場）、ポスター発表（奇数番号・高校生）、シンポジウム「藻類研究：多様なアプローチ、見えてきたこと、これから求められること」が行われ、3日目は口頭発表（2会場）、ポスター発表（偶数番号）、授賞式（学術賞、特別賞、研究奨励賞、論文賞、学生発表賞）、懇親会が行われた。

5. 2021年度第3回持ち回り評議員会

第3回持ち回り評議員会（2021年3月25日～4月2日）を開催し、【議案1】「文部科学省が公募している共同利用・共同研究拠点へ応募予定である「臨海生物適応ネットワーク共同研究拠点」を支持する要望書を日本藻類学会から出すこと」の可否を審議した。その結果、国内評議員15名のうち、14名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

6. 2021年度第4回持ち回り評議員会

第4回持ち回り評議員会（2021年5月19日～31日）を開催した。【議案1】「日本藻類学会第46回大会（2022年3月）を福井県立大学でオンラインで行うこと」の可否を審議し、その結果、国内評議員15名のうち、13名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。【議案2】「北海道大学総合博物館での企画展示において、日本藻類学会60周年記念で作成した藻類学者年表を展示利用することを許可すること」の可否を審議し、その結果、国内評議員15名のうち、13名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

7. 2021年度第5回持ち回り評議員会

第5回持ち回り評議員会（2021年5月25日～31日）を開催し、【議案1】「2021年日本藻類学会総会を8月にオンラインで行うこと」の可否を審議した。その結果、国内評議員15名のうち、13名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

8. 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HPへの掲載状況

2021年5月31日現在、66巻3号までのPDF fileを閲覧・ダウンロードできる状況。なお、55巻1号～66巻3号までは記事ごとのダウンロードが可能。

9. 学会HPによる情報配信と記載内容の更新

2021年1月から5月に掲載・更新した内容は次の通りです。

- ・第28回原生生物・寄生虫・進化（PPE）セミナー（Online）のお知らせ
- ・教員・研究員募集のお知らせ
- ・日本藻類学会特別賞、学術賞、研究奨励賞、論文賞、学生発表賞の授賞